

気候変動ウェビナーシリーズ

# オフセット・クレジットの 「信頼性」とは何か

2021年 8月 20日

---



## 質問と回答

当日視聴者の皆様から頂きました質問に登壇者が回答いたします。

質問1	MRVシステムについてもお時間があれば追加説明をお願いしたいです。
回答1	クレジットメカニズムでは、削減量をしっかりと定量的に評価するために、測定・報告・検証が求められます。特に、妥当性確認と検証プロセスは厳密かつ一貫して行われる必要があります。そのため、クレジットメカニズムでは、プロジェクトの妥当性確認と検証は、ISO14065等で認定された第三者機関によって行われます。

質問2	本日のテーマの「クレジット」とは、パリ協定第6条2項と4項の両者に共通に当てはまる話ですか？
回答2	当てはまります。第6条は、野心を高め、各国がパリ協定の1.5℃目標を達成することを支援し、世界の排出削減を確実にするものです。カーボン・クレジットの信頼性と質の高さは、二重計上の回避、追加性の確保、反転リスクへの対応、地域社会や環境に害を与えないという環境保全性の確保に基づきます。また、これらの要素は、第6条の議論と関係のあるCORSIAの排出ユニット適格性基準でも要求されています。  【参考資料】 CORSIA Emissions Unit Eligibility Criteria <a href="https://www.icao.int/environmental-protection/CORSIA/Documents/ICAO_Document_09.pdf">https://www.icao.int/environmental-protection/CORSIA/Documents/ICAO_Document_09.pdf</a>

質問3	VCSの相当調整はどこまで進んでいるのでしょうか。実現性はあるのでしょうか。
回答3	2021年4月22日、VERRAはVCSスタンダードv4.1を更新し、パリ協定第6条メカニズムの文脈で使用されるVerified Carbon Units (VCU) に対して、ラベル付けされたVCUが第6条メカニズムの要件を遵守していることを示す“第6条ラベル”を使用することを発表しました。 VERRAは、すでにCORSIAラベルを取得しており、COP26の第6条決定が成功した場合には、第6条ラベルを作成する予定です。したがって、VERRAは、CORSIAラベル付きVCU、通常のVCU、Article 6 VCUなど、消費者の需要やプロジェクト開発者のニーズに合った様々な種類のクレジットを生成することになります。  出典：VCS Standard v4.1 VCS Standard v4.1 Will Scale Up Finance for Climate Mitigation (2021年4月発表)

	<a href="https://verra.org/vcs-standard-v4-1-will-scale-up-finance-for-climate-mitigation/">https://verra.org/vcs-standard-v4-1-will-scale-up-finance-for-climate-mitigation/</a> VCSスタンダードv4.1、2021年4月 <a href="https://verra.org/wp-content/uploads/2021/04/VCS-Standard_v4.1.pdf">https://verra.org/wp-content/uploads/2021/04/VCS-Standard_v4.1.pdf</a>
--	---

質問4	追加性の重要性など考え方はわかっておりますが、Voluntary Creditを実際に購入する際に、例えば森林系のプロジェクトで本当にそのプロジェクトがAdditionalityをMeetしているか、Baselineなどの考え方も含めて、専門家がない場合事前にどのように確認するのでしょうか。Credit購入後のレピュテーションリスクどのように避けられるのかという観点が気になっております。
回答4	<p>各スタンダードが公開している資料に基づいて確認することができます。例えば、クレジットの購入を検討しているプロジェクトを管理しているスタンダードのホームページでは、関係する資料が情報公開されています。したがって、関連する資料を確認し、信頼性に関する要素にどのように対処しているかを確認することができます。もう一つの方法は、TSCVMの議論を確認するとです。TSCVMは、コア・カーボン原則に基づいてクレジットとクレジットメカニズムを評価しようとしています。TSCVMのフェーズ2報告書では、特定のセクターにおいて、修正や評価が必要な方法論があることが強調されています。したがって、このような国際的な議論をフォローすることは有益と考えています。</p> <p>出典: TSCVMフェーズII報告書 (2021年7月) <a href="https://www.iif.com/Portals/1/Files/TSVCM_Phase_2_Report.pdf">https://www.iif.com/Portals/1/Files/TSVCM_Phase_2_Report.pdf</a></p>

質問5	各企業が2050年に脱炭素を実現するためにはこのようなクレジットを購入する必要が出てくる可能性が高いと考えられるものなのでしょうか。これらクレジットを購入することで脱炭素を達成したと言えるようになるのでしょうか。
回答5	クレジットを購入するだけでは、2050年までにネット・ゼロを達成することはできません。2050年までに温室効果ガス排出量 (GHG) をゼロにするためには、まず、企業が、再生可能エネルギーの電力を購入したり、エネルギー効率を高めたりして、スコープ1、2、3の排出量を自ら削減する必要があります。その後、ビジネスのバリューチェーンの中で避けられない排出が残った場合には、オフセット・クレジットを購入してGHG排出量を削減するという選択肢があります。そのためには、高品質で信頼性の高いクレジットを使用し、社会的・環境的な悪影響を与えることなく、実際にグローバルな排出量を削減し、ネット・ゼロ目標に貢献することが重要です。CDPは、科学的根拠に基づく2050年までのネット・ゼロ達成に向けたビジネス戦略の第一次ドラフトレポートを

	<p>発表しており、詳細はレポートをご覧ください。</p> <p>出典：CDP Foundation for science-based net-zero target setting in the corporate sector (2020年9月) <a href="https://sciencebasedtargets.org/resources/legacy/2020/09/foundations-for-net-zero-full-paper.pdf">https://sciencebasedtargets.org/resources/legacy/2020/09/foundations-for-net-zero-full-paper.pdf</a></p> <p>日本語での要約 企業セクターにおける科学に基づく (SCIENCE-BASED) ネット・ゼロ目標設定の基礎的考え方概要 (2020年9月)  <a href="https://sciencebasedtargets.org/resources/legacy/2020/10/Net-0_Target-Setting_Exec-Summary_japanese_CDPJapanEdited.pdf">https://sciencebasedtargets.org/resources/legacy/2020/10/Net-0_Target-Setting_Exec-Summary_japanese_CDPJapanEdited.pdf</a></p>
--	---

質問6	信頼性に関わるルールは、グローバルで統一の基準が決まるのでしょうか？決まるのであれば、どの組織が作るのでしょうか？
回答6	<p>独立したクレジットプログラムや国際的な組織やイニシアティブ (TSVCM、SBTi、EDF、WWF、VCMiなど) など、さまざまなプレーヤーが存在し、第6条のメカニズムの議論が加わるため、クレジットの信頼性に関するグローバルスタンダードを作ることは難しいと思います。しかし、企業、NGO、研究機関、大学など100以上の団体で構成されているTSVCMは、今後の方向性を決める主要な取り組みの一つです。TSVCMはフェーズII報告書を発表し、コア・カーボン原則に基づいてクレジットやクレジットメカニズムを評価する方法を明らかにしています。</p> <p>出典：TSVCMフェーズII報告書 (2021年7月) <a href="https://www.iif.com/Portals/1/Files/TSVCM_Phase_2_Report.pdf">https://www.iif.com/Portals/1/Files/TSVCM_Phase_2_Report.pdf</a></p>

質問7	ネガティブな影響のところで、例えばSDGsの3つに貢献するようなツールを開発、というお話がありましたが、そもそも分野横断的に最低限のラインはno harmでないようなチェックは客観的に、どのように包括的に行っているのでしょうか。
回答7	<p>ネガティブな影響に関して、社会・環境セーフガード評価によって保護されています。このセーフガードは、クレジットプログラムに登録されたすべてのプロジェクトが、地域社会や環境に著しい損害を与えないことを保証するものです。ゴールドスタンダードの場合、社会、経済、環境分野を含む9つのセーフガード原則があります。ゴールドスタンダードでは、すべてのプロジェクトがセーフガードの要求事項を満たすことを求め、各原則に対する評価を行っています。この評価の事前審査はゴールドスタンダードで行われ、第三者である検証機関によって完全に評価されます。</p>

	<p>出典：ゴールドスタンダードのセーフガード原則  <a href="https://globalgoals.goldstandard.org/103-par-safeguarding-principles-requirements/">https://globalgoals.goldstandard.org/103-par-safeguarding-principles-requirements/</a></p> <p>ゴールドスタンダード、SDGsインパクト定量化方法論  <a href="https://globalgoals.goldstandard.org/400-sdg-impact-quantification/">https://globalgoals.goldstandard.org/400-sdg-impact-quantification/</a></p> <p>ゴールドスタンダード、SDGsインパクト・ツール・ガイダンス  <a href="https://www.goldstandard.org/blog-item/sdg-tool-guidance">https://www.goldstandard.org/blog-item/sdg-tool-guidance</a></p>
--	--

質問8	ベースラインや追加性など、それぞれの生データは公開されますか。透明性はどの程度でしょうか
回答8	<p>追加性を確保しているかどうか、また、ベースライン・シナリオの設定に関するデータは、各クレジットプログラムで公開されている文書から情報を得ることができます。クレジットプログラムの透明性とガバナンスは、クレジットの信頼性に関わる要素の1つであるため、プロジェクト文書を公開しているクレジットを選択することが重要です。なお、バイヤーが生データを確認したい場合、クレジットプログラムに情報公開を求めることが可能です。</p> <p>(事例)  VERRA登録簿システム：Recipe for Change Grouped Project  <a href="https://registry.verra.org/app/projectDetail/VCS/2384">https://registry.verra.org/app/projectDetail/VCS/2384</a></p>

質問9	VERRAの場合、Buffer pool account に入るBufferクレジット数は、平均的には、一つのプロジェクト全体のクレジット数の何%程度になるのでしょうか？また、このBufferクレジットは、（当然）販売することはできないという理解でよろしいでしょうか？また、Bufferクレジットの消費（予期せぬことが生じた場合に相殺される分）は、各プロジェクトに対応しているのでしょうか？POOLですので、Poolしたものの全体からプロジェクトに対応せず使われていくという方法を取ったりするのでしょうか？
回答9	VERRAの場合、バッファ・クレジットは販売することができず、検証済みのクレジットと分けられています。個々のプロジェクトのバッファ・クレジットをどれだけバッファアカウントに預けるかは、非持続性リスクツールによって決定されます。このリスクツールは、内部リスク、外部リスク、自然リスクの3つのカテゴリがあり、プロジェクト管理、財務的な実行可能性、コミュニティの関与などのサブカテゴリに分かれています。それぞれのリスク評価は、プロジ

	<p>エクトによって異なります。バッファアカウントは、すべてのプロジェクトからバッファ・クレジットを集める共通の単一アカウントです。</p> <p>プロジェクト内で自然災害が発生した場合、プロジェクト開発者は、自然災害を発見してから30日以内にVERRAに報告しなければなりません。そして、VERRAの登録簿システムを通じて、報告書を提出しなければなりません。その後、VERRAは、報告書を審査し、損害の評価を行います。その結果、自然災害によるGHG排出量を補償するためのバッファ・クレジットが発行されます。</p> <p>詳細については、VERRA の登録と発行のプロセスを参照ください。</p> <p>【参考資料】</p> <p><a href="https://verra.org/wp-content/uploads/2019/09/Registration_and_Issuance_Process_v4.0.pdf">https://verra.org/wp-content/uploads/2019/09/Registration_and_Issuance_Process_v4.0.pdf</a></p> <p>VERRA, Non-permanence risk tool</p> <p><a href="https://verra.org/wp-content/uploads/2019/09/AFOLU_Non-Permanence_Risk-Tool_v4.0.pdf">https://verra.org/wp-content/uploads/2019/09/AFOLU_Non-Permanence_Risk-Tool_v4.0.pdf</a></p>
--	--

質問10	クレジットの信頼性について、個々のクレジットを企業が購入する前に、信頼性が担保されるものを見分けることについて、専門的に助言するような機関はあるのでしょうか。
回答10	炭素市場での経験、特に国際的な経験を持つコンサルタント会社に相談することが有用かと思います。その他、TSCVMの議論をフォローすることが重要です。TSCVMは、コア・カーボン原則に基づいて、クレジットやクレジットメカニズムを評価しようとしています。

質問11	現時点で購入を避けた方がよいクレジットは何が御座いますでしょうか？
回答11	<p>クレジット制度を評価することは非常に難しく、プロジェクトの開発段階からクレジットの発行プロセスまで、各プログラムに関する多くの情報と技術的な理解が必要となります。クレジットの仕組みやプロジェクトが、少なくとも今回紹介した要素を満たしているかどうかを事前にチェックし、検討することが非常に重要であると考えています。TSCVMのフェーズII報告書では、特定のセクターで修正や評価が必要な方法論が強調されており、VCMに関するこのような国際的な議論をフォローすることは有用であると考えています。</p> <p>出典：TSCVMフェーズII 報告書（2021年7月）</p>

	<a href="https://www.iif.com/Portals/1/Files/TSVCM_Phase_2_Report.pdf">https://www.iif.com/Portals/1/Files/TSVCM_Phase_2_Report.pdf</a>
--	---

質問12	CA（相当調整）対象をラベルしたVCSのCreditは、NDC用なので民間企業が購入出来ないということでしょうか。民間が購入するCreditのPAのCAとの関連性が詳細分からずご説明頂けますと幸いです。
回答12	現在のところ、民間企業がCAを適用したクレジットを使用できないという国際的なコンセンサスはなく、これはCA対象をラベルしたVCSのクレジットについても同様です。クレジットにCAが必要な理由は、クレジットを生み出すホスト国とクレジット獲得国がNDC達成のために同じ量のクレジットを主張しないよう、二重計上及び二重請求を避けるためです。民間企業であっても自主的な排出削減を行い、ネット・ゼロ目標のためにクレジットを使用するのであれば、二重計上を避けるべきという意見もあります。

質問13	せっかく観点をまとめられたのであれば、それを活用してJCMを（必要あれば）どう改善できるか、という分析、提言をIGESさんとして実施していただくとう良いのではと思いました。
回答13	IGESでは、JCMプロジェクトがJCMパートナー国のSDGs達成にどのように貢献しているかを明らかにするJCM-SDGs分析や、民間企業によるSDGs貢献を明らかにするJCM-SDGs分析を行っています。2019年には、SDGsの17のゴールと169のターゲットを結びつけるJCM固有の指標を初めて開発しました。これらの指標を用いて、民間企業とパートナー国は、SDGsに対するプロジェクトの貢献とポジティブな影響を分析することができます。なお、JCMでは、インドネシアとモンゴルで持続可能なガイドラインが採用されています。今後、パートナー国からこのようなガイドラインの作成要請があれば対応していきます。  【参考資料】 二国間クレジット制度による持続可能な開発への貢献（2019） <a href="https://www.iges.or.jp/en/pub/joint-crediting-mechanism-jcmm-contributions-sustainable-development-goals-sdgs/ja">https://www.iges.or.jp/en/pub/joint-crediting-mechanism-jcmm-contributions-sustainable-development-goals-sdgs/ja</a>  二国間クレジット制度による持続可能な開発への貢献 活用ガイダンス（2020） <a href="https://www.iges.or.jp/en/pub/jcm-and-sdgs-linkage-guidance/ja">https://www.iges.or.jp/en/pub/jcm-and-sdgs-linkage-guidance/ja</a>